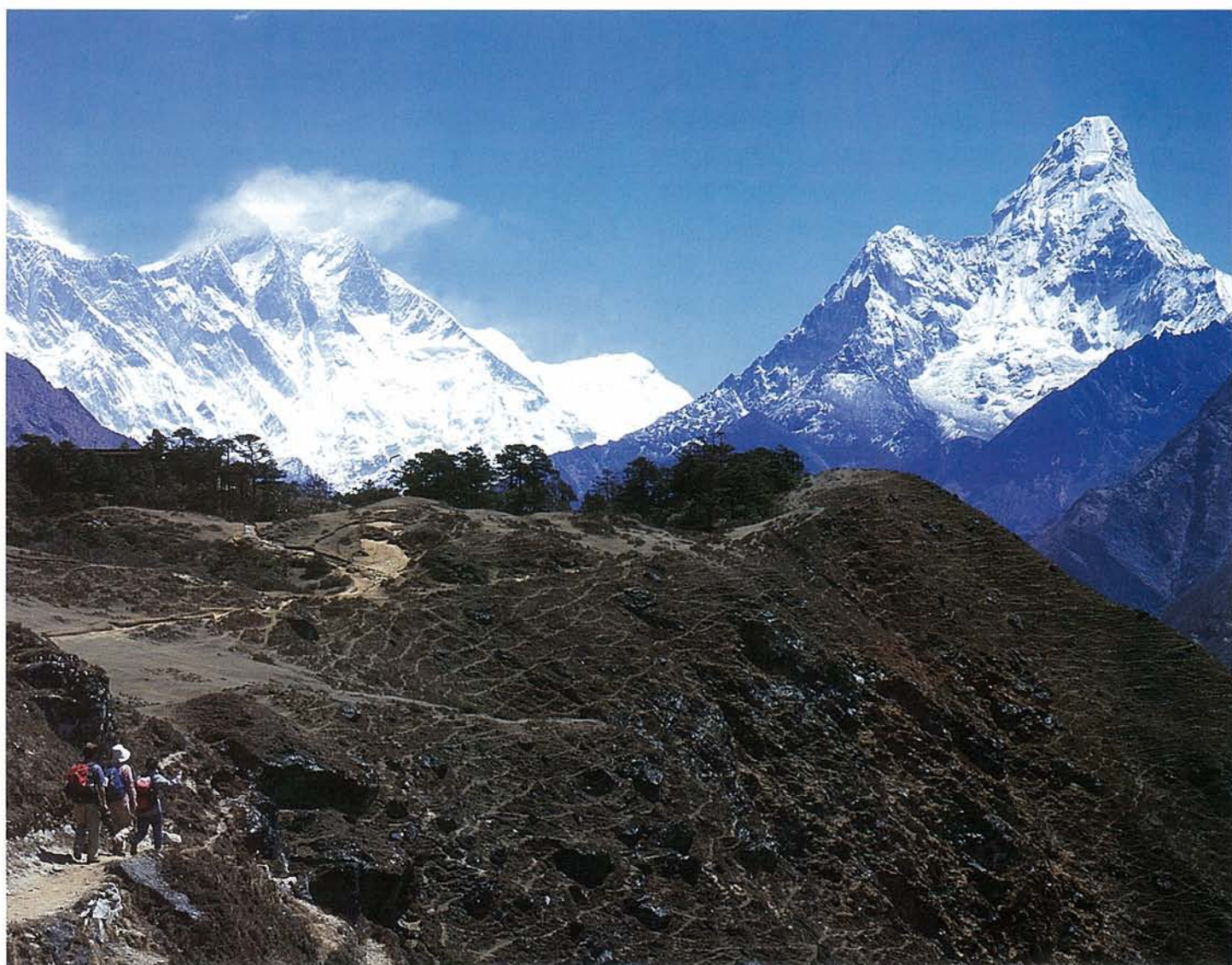


— セント・ルカ産婦人科 —

ルカ新聞

 No.2
 2000.12.


向日葵

ある村にマリアとマルタという姉妹が住んでいました。イエス様がその村においでになり、彼女たちの家でお話をはじめられました。村の人々は集まってイエス様の尊いお話に聞き入っていました。マリアもイエス様の足元に座って熱心に聞いていました。マルタは集まってきている人々をもてなすために忙しく立ち働いていました。そしてとうとうマリアが手伝いをしないことに腹を立て、イエス様に言いました。「イエス様、私の妹のマリアは私がこんなに忙しくみんなのために働いているのに手伝ってくれませんか。なんともお思いになりませんか。イエス様からも私を手伝うように言ってください。」と訴えました。イエス様は答えになりました。「マルタよ、あなたは多くのことに思い悩み、心を乱している。しかし、いつでも最も必要なことはただ一つだけです。今は私の話を聴く時です。マリアは良いほうを選んでいなのです。それを取り上げてはなりません。あなたにとっても今はみんなのためにお世話をするのではなく、私の話を聴いて考えるべき時なのです。」

このように私たちはたった一つのことしかできない瞬間、瞬間を過ごしています。今なすべきことは何か、何かを犠牲にしても一番にしなければならぬこととは何か、それを自分自身の生活と人生設計の中で考え、夫婦でよく話し合っ、そして自分自身で決定したいものです。

「性教育」

院長 宇津宮 隆史



今年になって県下の高校から「性教育」を依頼される機会がありました。性教育については、基本は「教育」であり、われわれ産婦人科医は教育者ではないということで今まで何度もお断りしてきました。ところが今回の依頼してくれた方は、セント・ルカのさまざまな活動を良くご存知で、「不妊診療からみた『生命の大切さ』を高校生に教えてあげてほしい」ということでした。そこで早速資料集めからかかりました。かつてから交流のある青森県の「医療と社会セミナー」で知り合いになった「弘前レディースクリニックはすお」の蓮尾豊先生が送ってくださった資料を中心にアレンジしてスライドを作ってみました。そして最近の高校生が対象ということで、はたして静かに聞いてくれるかと心配でした。そこでまず、話の流れとして、最初に大きなインパクトを与える話題として、「性感染症」から入ることにしてみました。そしてつぎに「生命の誕生」、そして最後に「避妊法」という順に組んでみました。

さて、当日、高校に行くと、ズボンをお尻の下までずり下げた、眉毛をそりあげた「いまどき」の高校生がたくさんいました。この子たちが静かに聞いてくれる様には思いませんでした。しかし、意に反して、思いもかけず、意外にも、はじめから終わりまで静かに聞いてくれてほっとし、また「外見とは違うな」と思いました。そして後日、感想文が送られてきました。内容を見ると、ほとんどの高校生が、生命の大切さ、性感染症の怖さ、そして避妊の重要さを感じ取ってくれていました。そして若い彼らはこちらの言ったことをびっくりするほど敏感に感じ取ってくれていました。また、その反面、彼らの「性知識」の貧弱さには本当に驚きました。それはテレビや週刊誌的な偏った中途半端な知識でしかないものでした。世論調査によると今や高校生の30 - 40%が性交渉の経験があると報道されています。また、最近の社会の変化により、彼らを取り巻く環境は以前に比べ、格段の差があることを認識しなければならない時期です。さらに、資料集めにあたって、いろいろな本を集めました。文部省から出ている「性教育のあり方」のみが「寝た子を起こすな」的な姿勢であった事が印象深い事実でした。これでは、教育者が性教育に不自由

を感じても不思議ではないと思いました。

最近、生殖医学の分野においても、他人の精子、卵子を用いた体外受精が容認されようとしています。しかしまず、厚生省の諮問委員会からこの問題についての見解が公表され、その後、それに沿ったガイドラインが産婦人科学会や不妊学会の委員会から出されるはずといひます。なんとも日本的、官僚主導的ではありませんか。これは生殖医療を直接担っている産婦人科医、不妊学会がリードを取るべきとおもいます。そして森崇英先生が言われたようにその委員会の中には不妊症の患者さんも委員として加えるべきではないでしょうか。このようなガイドラインは広く国民のコンセンサスを得るべきとは思いますが、しかし、圧倒的にマイナーな立場の不妊症患者さんにとっては、他の90%の子供のいる不妊でない国民の意見とは対立する惧れがあります。さらにどちらが正しいとは言えないケースも出てくるでしょう。そこでわれわれ（医療側も患者さん側も）何によって判断しなければならないか、それはそのひと、そのひとのモラルであり、倫理観であり、信念でしょう。私は、基本的には、生まれてくる子供の立場に立った医療であるべきと思います。それが「生命の大切さ」を中心に据えた生殖医療であり、不妊治療であると思っています。



セント・ルカ 生殖医療研究所 の技術顧問に成って

高度生殖医療技術研究所 (ARMT) 所長 荒木 康久



日本の不妊治療が大きく変貌をとげる切っ掛けは1コの精子を1コの卵子に直接注入できる、いわゆる顕微授精 (ICSI) の臨床応用に始まったといえる。1993~1994年頃、日本の第一線の臨床家がこの技術に興味をいただき積極的に導入を計っていた。

世界で最初にICSIに成功し、当時、世界の寵児となっていたDr. パレルモが日本不妊学会の特別講演 (山形) に招聘されて来日した。学会会場は超満員でその熱気で充満していた。その学会の帰路、私の前職場であった研究所 (栃木) にDr. パレルモをお呼びしてICSIなる技術研修会を主催したところ、山形の不妊学会に出席された著名な先生方が多数参集された。そのお一人に宇津宮先生がおられた。これが先生との接点の始まりのような気がする。当時 (今もそうですが)、駆け出しのペイペイもいところ何も不妊治療の知識を持ち得ない身で、錚々たる先生をお迎えした当時を思い出すだけで身の縮まる思いがする。山形の学会での発表後すぐ引き返して、先生方をお迎えする準備のため徹夜に次ぐ徹夜だった。

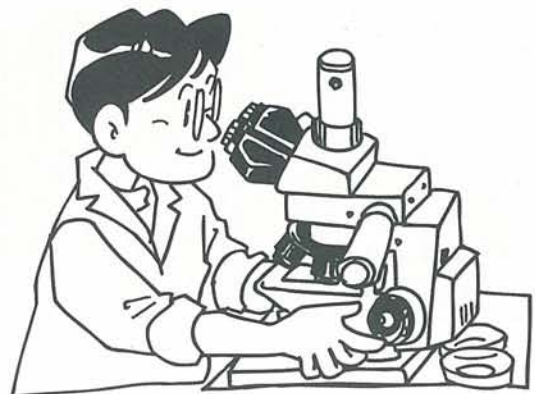
予想通り現在、日本の不妊治療関係者でセント・ルカを知らない者はいない程の隆盛である。研究所を併設されたクリニックは益々日本における将来のクリニックの在るべき姿の指針となっている。今後セント・ルカのような独自の研究所 (室) を併設するクリニックが増加してくると予想される。研究とは大学には大学の、大病院には大病院の、特殊クリニックにはそれなりのその環境に適合した研究テーマが有り、どのテーマも掘り下げていけば深いものである。最終的に人類の幸福につながるものであれば、研究に優劣の差などあるはずがない。特に受精現象から派生してくる諸々の未解決の研究テーマは尽きない。セント・ルカでは臨床問題 (疑問) から出発したテーマを基に臨床材料を使った研究が開始されている。やがて結果は臨床にフィードバックして患者さんに還元されるであろう。このような研究所に技術顧問として参加させていただけることに感謝している。最終的に患者さんに役立つ仕事に繋がれば望外の喜びである。

経 歴

荒木 康久 (あらかき・やすひさ) 先生
鳥取県出身

現職：高度生殖医療技術研究所 所長

- 1967年(昭和42年) 岩手大学農学部畜産学科卒業
- 1967年(昭和42年) 群馬大学医学部産婦人科学教室
文部技官
- 1973年(昭和48年) 群馬大学医学部微生物学教室
研究員
- 1988年(昭和63年) 医学博士取得
- 1990年(平成2年) オーストラリア、PIVET Medical Centreにて生殖医療の研修
- 1992年(平成4年) 高度医療技術研究所・中央クリニック 勤務
- 1996年(平成8年) 臨床エンブリオロジストの会発
足に伴い会長に就任
- 1998年(平成10年) イギリス、The Park Hospital
Centre for Assisted Reproductionに研究員として留学
- 1999年(平成11年) 高度生殖医療技術研究所 設立
(群馬県前橋市)
- 現在、同研究所 所長



S T L U K E

2000.

赤ちゃんが欲



講演中の院長

去る10月7日(土) 13:30~17:00
赤ちゃんが欲しい講座が開催されました。

今年で4回目になりました。院長と「おがた泌尿器科」の緒方俊一先生による講演で「治療内容がよく理解できた」「夫婦でいたわり励ましながら治療が出来る」と好評でした。今回は三重野さんと藤井さんのお二人に元患者としての、体験談をお話していただける事が出来ました。

お二人のお話を聞いて会場内はいつもとちがった雰囲気にもまれ、もらい泣きしたり、笑ったりと和やかに会が開催されました。なかでも「セント・ルカの院長が怖い人、手を挙げて」の声に笑いながら、又、おそるおそるほとんどの人が手を挙げている中で院長が「え!!」と言いながら首をかしげているのが印象的でした。(院長はあまり自分が怖がられているのは自覚がないようです。)10月の忙しい時に県内・外からも多くの方々に来て頂きありがとうございました。参加された方からアンケートに答えて頂いた中で「毎年開催してほしい」「10月は体育祭・稲刈りと忙しいので他の月にしてほしい」などの要望がいただきました。

今後も、赤ちゃんが欲しい講座を続けていきたいと考えておりますので一度参加してみませんか?又、皆様からのご意見ご要望をおまちしております。

担当 原井淳子



講演前に原稿をチェックする院長



全体図



緒方俊一先生

10.7 しい講座開催



三重野さん

患者さんから メールをいただきました!!

10月7日「赤ちゃんが欲しい」の講座、大変お疲れ様でした。このような素晴らしい講座に参加できた事に大変感激しております。

初めは約3時間半もあるこの講座、一体何をそんなに話すことがあるのかなあ?きっと眠ってしまうかも…と失礼ながら思っていました。

しかし笑いあり、涙あり(私は涙が止まりませんでした)の諸先生方のお話、宇津宮先生、緒方先生のお話どれも聞き逃せないものばかりであったという間の3時間半でした。

主人と参加させて頂いたのですが、帰りの車の中で今後の自分たちの話をしたり何の苦労もなく子どもに恵まれた方にも、聞いてもらいたいような講座だったなあ〜とお互いに話したところでした。

ちょっと精神的に挫けそうだったこの頃だったので、この講座を通じてパワーを補充することが出来ました。

宇津宮院長先生をはじめセント・ルカ産婦人科の皆様ありがとうございました。今後ともどうぞよろしく願いいたします!!

湯布院町 Sさんより

* * * * *

3年前に第1子妊娠でお世話になりました。

昨日「赤ちゃんが欲しい講座」に行ってきました。3年ご無沙汰だと、なんだか「浦島太郎」の気分でした。病院外で見る院長先生は初めてでしたが、診察中なぜ無愛想(失礼(^_^s)なのか理由がわかり、よかったです。非常に張り詰めた気持ちの中、一生懸命治療にあたって下さっているんですね。ありがとうございます。

私も長男が2歳になり、そろそろ次の子が欲しいなあと考えています。まだ時々乳を吸っているので、一段落したらまた伺うつもりです。その時はどうぞよろしくお願いします。

昨日は忙しいところ貴重なお話を聞かせていただき、本当にありがとうございました。

大分市 Tさんより



STAFF



藤井さん



「赤ちゃんが欲しい」講座 次回のご案内

不妊治療のことで悩んでいる貴方…

院長と一緒に、同じ悩みを持った方々とコーヒーやケーキを楽しみながら、不妊の検査と治療についてゆっくりお勉強やお話をしませんか?

今後、3ヶ月に一回の割合で開催する予定です。是非ご参加下さい。

日時：平成13年1月27日

午後2時より3時間程度

会場：ホテルくれべ(駅前 パルコ横)

3F花祭

☆参加ご希望の方は受付までご連絡をお願いします。



赤ちゃんが欲しい講座

Q&A

たくさん頂いたご質問の中から、特に多かったご質問にお答えさせていただきます。

Q. 内膜症の治療をしても再発するのですか？

再発しない為にはどうすれば良いですか？

A. 治療をしても約半分は再発することがあります。どうすれば絶対再発しないかは現在、不明です。

Q. けいりゅう流産の原因は何ですか？

A. 染色体異常によるものが50～80%です。

Q. 人工授精や体外受精をしても妊娠しないこともあるし治療をやめてから自然妊娠をしたケースもあると聞いたことがあります。

精神的なものが妊娠に大きく関係するのですか？

A. 関係があります。

しかし、確率の高いことをするのが医療です。

Q. 治療をはじめて3年になります。

やはり癌検診を受けた方が良いでしょうか？

又、治療を終えた後も癌検診にだけ通えますか？

A. 癌検診は受けた方が良いでしょうね。

又、癌検診だけでもOKです。受診して下さい。

Q. 精子の運動率をあげるにはどうすれば良いですか？

A. タバコやお酒をひかえ、軽い運動をすると良いですね。

Q. 主人が無精子症です。

精子細胞から精子が培養できると聞きましたが出来ますか？

A. 当院ではしていません。さまざまな問題がありますし、法律的にも許可されていません。



【メンタル部門の活動】

【ガーネットサークル】

このサークルは、当院で体外受精をし妊娠→出産へと至った方と現在体外受精を受けられている患者さん、もしくはこれから受けようとする患者さんとの交流の場です。

“ガーネット”の由来ですがガーネットは和名“ざくろ石”といわれ“ざくろ”は風水などで子宝に恵まれるものとして有名です。このサークルを利用して同じ治療段階にいる人と悩みや不安を話したりしてみませんか？
 今回は、2月3日(土)に予定しています。

【なんでも相談】

毎週土曜日 午後(要予約)

診察に来る度に聞こう聞こうと思いつつ、ついつい聞きそびれてしまう事、ありませんか？ちょっとした不安も、意外と皆さんのストレスとなっていることと思います。どんな内容でも構いません。たいしたことではないから、と、胸の中にしまっておかず私達スタッフとお話しませんか？

お問い合わせは 看護婦までお願いします。

金子先生との勉強会

私達スタッフは様々な学会、研究、勉強会等に参加しています。
その中の一つに、心理学の勉強会があります。

別府大学臨床心理学教授 金子進之介先生を講師に招き月一回、
合計五回受講しました。

基本的なカウンセリング用語から具体的な例を挙げての説明まで
質疑応答を交えながらの充実した講義となりました。

院長をはじめ、スタッフ全員が参加し、連帯感を強め、患者さん
側に立った視点で、患者さんに接する事が出来るよう、努力してい
ます。



NEW職員紹介

看護部



松元恵利子 関こずえ 小濱なお子

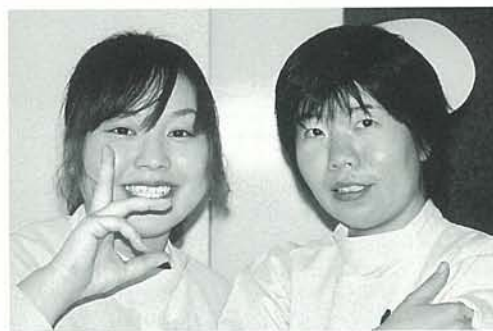
検査部



首藤 美雪



城戸 京子



清原あゆみ 赤嶺 佳枝

受付からのお願い

受付

- ①診察カードをカード入れに入れて下さい
- ②名前を記入して下さい
- ③ピンクの手帳をお持ちの方はお出し下さい
- ④保証書は月に一度ご提示下さい

予約（夕方は完全予約制）

- ①予約ノートに記入下さい
- ②電話でのご予約は月・水・金の14:00~17:00の間をお願いします
- ③予約は前日までをお願いします(当日予約はお受けできません)
- ④休日の注射は必ず予約をして下さい

休診

- 日・祭日の他、院長学会のため、臨時に休診となる場合があります
- 必ず、待合室の掲示板で確認して下さい

料金

- 午後の注射 17:00~18:00 700円
18:00~19:00 1,400円
- 午後の診察 17:00~18:00 1,100円
18:00~19:00 2,200円

追加させていただきます

※ 上記時間以外は別途加算となります。

セント・ルカ行事後期一覧表 2000. 8. 1~

<p>8.21 新職員 清原あゆみさん (看護部)</p> <p>8.24 第3回カウンセリング講座 (ルカ多目的ホールにて) 別府大学臨床心理学 金子進之介教授</p> <p>8.26 第8回ガーネットサークル OG 2名、参加者7名</p> <p>8.26 第40回体外受精教室 参加者19名</p> <p>8.29 加藤レディスクリニック (東京) より 瀬川敦也様、森田 大先生研究室見学及びセラベース見学</p>	<p>「不妊治療中に流産となった患者の心理」(品矢悦子)</p> <p>「腹腔鏡前後の患者の心理状態や精神的ストレス」(柴田令子)</p> <p>「不妊因子別および回数別にみたARTの成績」(平井香里)</p> <p>「Prospective randomized study DAY-3 ETとDAY-5 ETの臨床的比較検討」(長木美幸)</p> <p>11.23 第45回日本不妊学会(神戸)発表(品矢、實崎、柴田、平井) 参加<長木、院長></p>
<p>9. 6 XVI FIGO World Congress Of Gynecology and Obstetrics 発表(院長)参加<平井、柴田>(Washington,D.C.) 「A prospective randomized controlled study on the comparison of the results between the day-3 embryo transfer and day-5 blastocyst transfer.」(院長)</p> <p>9. 9 生と死を考える会(大分) 講演「現代医療におけるホスピスの働き」参加<實崎></p> <p>9.16 JavascriptとVRMLの講習(雇用・能力開発機構大分センター) 参加<工藤、内藤></p> <p>9.16 第41回体外受精教室 参加者25名</p> <p>9.18 新職員 赤嶺佳枝さん(看護部)</p> <p>9.25 高度生殖医療技術研究所 所長 荒木康久先生ご来院・ご指導</p> <p>9.30 第3回IVF研究会、日本不妊学会関西支部会(大阪) 参加<公文、長木> シンポジウム講演「DAY-3 ETとDAY-5 ETの比較 Retrospective studyとProspective Randomized studyから」(院長)</p>	<p>11.23 「不妊治療中に流産となった患者の心理」(品矢悦子)</p> <p>「不妊因子別および回数別にみたARTの成績」(平井香里)</p> <p>「腹腔鏡前後の心理状態と精神的ストレス」(實崎美奈)</p> <p>「不妊治療経験が母性理念に与える影響」(柴田令子)</p> <p>11.23 第45回日本不妊学会付設展示会 セーラベース展示参加(神戸) 参加<工藤、内藤></p> <p>11.25 平成12年度 社団法人大分県看護協会 教育計画より(大分) 講演「看護の視点からI.C.を考える」参加<實崎></p> <p>11.25 第43回体外受精教室 参加者17名</p> <p>11.30 セント・ルカ生殖医療研究所動物舎完成</p>
<p>10. 3 新職員 首藤美雪さん(研究室)、小濱なお子さん(看護部)</p> <p>10. 6 第12回大分市医師会産婦人科 一内内分泌・不妊・代謝-懇話会(大分) 参加<清原、齊高、品矢、實崎、柴田、婦長、渡邊佳、首藤> 「妊婦初期の染色体異常」 名古屋市立大学 医学部 産婦人科学教室 教授 鈴森 薫先生</p> <p>10. 7 第4回赤ちゃんが欲しい講座(コンパル文化ホール) 講師<院長、おがた泌尿器科 緒方俊一先生、当院OG 2名></p> <p>10. 7 第7回不妊カウンセラー・体外受精コーディネーター養成講座(東京) 参加<實崎、長木></p> <p>10.10 新職員 城戸京子さん(研究室)</p> <p>10.10 聖書のお話(浅見正一牧師)</p> <p>10.11 大分県立大分豊高高等学校 性教育(大分)講師<院長> 参加<渡邊佳、清原、首藤、城戸、内藤></p> <p>10.23 高度生殖医療技術研究所 所長 荒木康久先生ご来院・ご指導</p> <p>10.27 第4回カウンセリング講座(ルカ多目的ホールにて) 別府大学臨床心理学 金子進之介教授</p> <p>10.28 第42回体外受精教室 参加者32名</p>	<p>12. 1 第5回カウンセリング講座(ルカ多目的ホールにて) 別府大学臨床心理学 金子進之介教授</p> <p>12. 1 新職員 関こずえさん、松元恵利子さん(看護部)</p> <p>12.10 第3回九州・山口情報処理研究会「産婦人科医療におけるIT利用の実際と構想」発表(内藤)参加<工藤> 「臨床データ・医学統計解析ソフト~セーラベース~」(内藤多恵)</p> <p>12.15 高度生殖医療技術研究所 所長 荒木康久先生ご来院・ご指導</p> <p>12.16 セント・ルカ産婦人科 忘年会(大分東洋ホテル)</p> <p>12.25 セント・ルカ産婦人科 クリスマス会(セント・ルカ多目的ホール)</p>
<p>11.10 第18回日本染色体遺伝子検査学会(福岡)参加<公文、大津></p> <p>11.16 第31回大分市医師会医学会(大分)発表(品矢、實崎、平井、大津) 参加<長木、熊迫、平井、公文、城戸、婦長、原井、齊高、宿利、清原、渡邊佳、院長></p> <p>「不妊治療中に流産となった患者の心理」(品矢悦子)</p> <p>「ART治療周期へ進む患者の生命倫理の捉えかた」(實崎美奈)</p> <p>「不妊因子別回数別にみたARTの成績」(平井香里)</p> <p>「FISH法を用いた異常受精卵の解析」(大津英子)</p> <p>11.17 九州国際テクノフェア・IT2000(北九州)参加<工藤、内藤></p> <p>11.19 第56回日本不妊学会九州支部会(熊本) 発表(品矢、柴田、平井、長木)座長<院長></p>	<p>著書 <院長>「胚盤胞移植の有用性」着床-妊娠率向上をめざして- メジカルビュー社 「体外受精—update ARTと流産」メジカルビュー社(投稿中)</p> <p>論文 <院長>「胚盤胞移植は妊娠困難例に有効か?」臨床婦人科産科 No.54 2000 「A prospective randomized controlled study on the comparison of the results between the day-3 embryo transfer and day-5 blastocyst transfer.」Human Reproduction (投稿中) <實崎美奈>「ART治療周期へ進む患者の生命倫理の捉えかた」日本授精着床学会雑誌(投稿中) 「不妊患者からみた生命倫理について」アルメイダ医報(投稿中) <Dr.paul E.Kihale>「Comparison of outcomes between patients with poor prognosis sperm morphology who underwent either modified conventional IVF with high insemination of sperm concentration or ICSI.」(投稿中)</p> <p>学会・論文 学会発表、講演16回(国内15、国外1) 論文(著書・訳本含む)7編 学会・講習会参加41回(国内38、国外3)</p> <p>治療・手術 ART全周期数617周期(うち採卵数460例)<2000.11.30施行分まで> 妊娠数267例(内ART110例)<2000.11.30確認分まで> 開腹20例(うち子宮筋腫核出術10例、子宮全摘出術7名、卵巣の腫核出術1名、卵巣腫瘍核出術1名、その他1名)<2000.11.30施行分まで> ラパロ188例(外妊8例、GIFT9例、ZIFT10例、TET1例含む)<2000.11.30施行分まで></p>

編集後記

20世紀も終わろうとしています今年一年どんな年でしたか?10月に行われた赤ちゃん欲しい講座で体験談を聞かれた方々お二人の勇気や希望・パワーが少しでも伝わったでしょうか?来年より三月月に一度赤ちゃん欲しい講座も開催しますのでぜひご夫婦でいらしてくださいね。

右の写真は、院長が撮影されたカトマンドウのダルバール広場につまってある神様の写真です(昔のネパールの王様と女王様で今は崇拝の対象とされているそうです)院長やスタッフの願いが皆さんに届きますように!

21世紀もよろしく願いいたします。



妊娠報告件数

(2000.7.1~2000.12.9)

体外受精、顕微授精等

65件

*

体外受精以外

82件

計 147件